

着々と進む、青年の島・米自給支援プロジェクト

◆昨年11月の訪問を受け、CUBAPONの米自給支援プロジェクトの松矢文男さんと菊田仁さんは、5月の米作付けにあわせて、現地を訪問してきました。

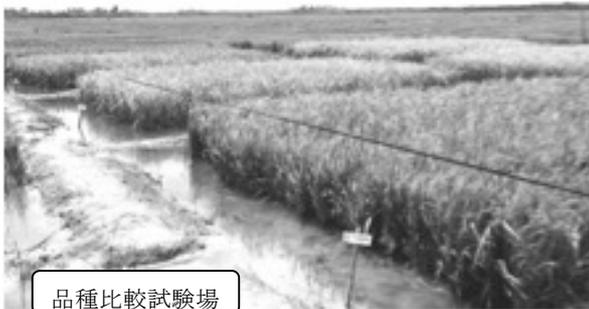
以下、速報です。

※詳細は「米自給支援プロジェクト報告集N03」で報告となります。

レポート：松矢文男

昨年のCUBAPONと現地プロジェクトチームとの取り決めによる、稲作技術指導を目的とした訪問を5月4日から12日まで行ってきました。今回は菊田さんと事務局から松矢も同行しました。青年の島に4泊し、プロジェクト対象地区4か所を訪問、各地の状況を視察し稲作従事者と話し合いを行いました。また、昨年訪問できなかったロスパシオス稲研究所にも行くことができました。

5日夕方、青年の島に入り、チームのメンバーと日系人会、ロスパシオス稲研究所の指導員の方々の出迎えを受けました。そして、滞在中の行動日程について確認をしました。



品種比較試験場

翌6日、セリアサンチェス地区のイベントに参加しました。このイベントは研究所員が毎年又は隔年に本島各地域を回って実施しているもので、今回初めて青年の島で開催することになったということでした。内容は稲作の現況についての研修会、米料理コ

ンテスト、子ども絵画コンテスト、文化交流となっています。

他地区の稲作従事者のバスが遅れ、11時にプログラムを若干変更して始まりました。開会の挨拶の後、子ども達はメリンダ（中食）タイムで、研修会が先に行われました。プロジェクトターを使っの説明に熱心にメモをとりながら聞いている稲作従事者もいました。その後、車で5分程度の所にある田圃へ行き、20種の米を比較試験をしている状況を見学しました。残念ながら10日前に島の被害で収穫前の稲穂が食べられてしまったそうで結果はよく分かりませんでした。LP（ロスパシオス）5（番）の品種が病虫害に強く、穂の実りも一番良かったとのことでした。

会場に戻り、料理コンテスト（17品目）の審査に加わりました。台所から料理を作った女性たちがどう評価されるか興味津々で見守っていました。会場には子ども達の絵も掲示されていましたが、それとは別に午前中に子どもたちが絵を描いていて審査済みでした。子どもたちによる米作りをテーマにした絵画展を日本で開催できればいいなと思いました。

全員が集まり表彰式が行われ、私たちも賞品を提供しました。その後寸劇がいくつかあり、最後にプロのピエロによる演劇があり、大人も子どもも一緒に楽しい一時を過ごしました。



稲作促進イベント会場



11年度収支(11年度5月1日～12年度5月31日)

支出		
会報印刷代	35,865	39号、40号、
その他印刷代	17,252	チラシ、封筒、資料
送料	58,419	会報、封筒など
会費等	8,120	
行事費	40,640	アレイダ来日関係
資料費	8,000	カリブ社会主義買取
10借入金返済	84,398	10年度1IFCCより
計	252,698	
収入		
会費	123,000	42人
カンパ	20,000	7人
稲作支援翻訳手数料	66,000	稲作プロジェクト
物資販売	37,300	ゲバラコイン等
11借入金	6,398	IFCCより
計	252,698	

り入れ口をもう1か所増やすとのことでした。ここで使われているポンプは全く問題なし。また、糞を使った堆肥作りも試みていました。田圃に近いところに規模も大きくして設置するのが望ましいと伝えました。すでに種は購入してあり、LP5を播く予定とのことでした。

昼食を上川さんに用意してもらって、馬車で北西海岸へ海草等の調査に行きました。浅瀬に有機質の泥があり、堆肥として使えることが分かりましたが、車の通る道がなく今のところ活用することは難しいだろうという結論でした。

8日、宮沢さんも同行して、デマハグア地区の視察。稲の生育状況と水の確認をしました。水源池の水が不足してかなり後退していました。水を取り入れるにはホースの長さが足りないとの指摘を受けました。次回の訪問時には持参できたらと思いました。

ここでもLP5の種を播きたいという希望で、堆肥作りにも何とか自分たちで車を用意して取り組みたいとのこと

キューバ米自給支援プロジェクト支援カンパ収支(個人カンパ)		
収入	204,000	12年度個人協賛金 25人
	189,000	11年度個人協賛金 21人
	165,000	団体協賛基金より繰入
計	558,000	
支出	72,646	報告集1号、2号作製
	8,500	報告集送料一部
	84,798	連絡、通信費
	165,000	翻訳代
計	330,944	
残	227,056	

※現地へのポンプ、他の支援物資は団体協賛基金より支出
2012. 5・31 現在

キューバの米の約7割を占め、味も良く一般化されているが、1品種は5割ぐらいに押さえるべく、より良い品種を開発研究中のことでした。

ヘロナに戻り、プロジェクトチームのハイメ氏と彼の上司のヘスス氏、宮沢さんと今後のプロジェクトの支援について協議を行いました。(支援金の使途及び必要金額、稲の品種、海草などを使った堆肥作り、ポンプの修理等々について検討) その結果、今回は400CUCを支援金として渡しました。

9日、青年の島を発ち、午後ロスパラシオスに到着しました。地域の伝統的な米作り農家の田圃を見学し、意見交換をしました。隣の田圃と見比べるとそこには長年積み重ねてきた経験の違いがあると感じました。

10日、午前中ロスパラシオス研究所を訪問し、研究内容などの詳しい説明を受け、研究圃場を見学しました。

帰りにヘロナから北東6Kmのパライソ海岸に海草があるとのことで堆肥として使えるかを見に行きました。家畜も食べないので海岸に放置されたままでしたが、堆肥として使えることが確認できました。これを農場に運ぶ方策が必要ですが、支援金から何とかまかなえるのではないかと思われました。

7日、シロレンド地区の視察に行き、現地でロスパラシオスの3名と合流。まだ田圃には水が入っていませんでしたが、昨年より作付地を拡大してありました。

また、水の取



上：肥料の調査中
下：贈与したポンプの稼働チェック



でした。またこの地区で使われていたポンプの故障箇所を確認しました。部品の交換や補修にはクバポンが中に入らないで、ムンドバットを通して、現地が直接行った方が今後導入される機械に対してもいいのではないかと私たちの考えを伝えました。

フカロに移動して、湊さん宅で昼食をご馳走になりました。その後原田さん宅にも寄り、希望の種を聞いたところ、フカロでもLP5を希望していました。(LP5はロスパラシオス研究所で開発した品種で、現在キ



ロスパラシオス研究所に

新しい品種の開発やベトナム方式による稲栽培の実験などに取り組んでいました。(詳しいことは、報告集 vol. 3 に掲載します) また、青年の島に適した品種の研究と青年の島農家の研修についてもハイメ氏と進めているとのことでした。

最後に、「草の根の無償」が正式に調印された後、機械の導入については農務省の認可が必要ということで、訪問時にはまだ認可されていませんでした。機械類が青年の島に届くのは夏以降になると思われます。

今回は田植え用長靴や鎌を持参しましたが、これからもできる範囲で必要な物資の支援も行っていきたいと思えます。今後ともご協力の程よろしく願いいたします。

●「カリブの社会主義 Part X IV」発行案内

2011 年秋、実施された訪問団の現地レポート。共産党大会後のキューバの姿を、医療現場や農場視察を通じて見聞した記録。(A4 版、65 頁、800 円 送料込)

●11 月/キューバ平和友好訪問団の呼び掛け～キューバ連帯を掲げて～

第 16 回キューバ平和友好訪問団を、11 月 18 日(日)～25 日(日)、予定。参加者募集中。

今回は、キューバ革命の発端となったモンカダ兵営襲撃事件から 60 周年(2013 年)を迎えるプレ企画として実施予定で、革命の故郷“サンチャゴ・デ・クーバ”を訪れます。

「米自給支援プロジェクト」は CUBAPON の活動の一つです。「新自由主義体制」崩壊の荒波の中で、キューバがどのように生き続けるのか、また、「キューバ連帯」の今日的意義はいかにあるべきか、課題は山積みです。現地に赴き、自らの体験で連帯を掲げて行きたいと思えます。※詳細は同封チラシ。

●アジア第 6 回連帯会議参加の案内

延期になっていた第 6 回キューバ連帯アジア太平洋地域会議が、10 月 20・21 日にスリランカのコロomboにて開催を予定。参加ご希望の方はお問い合わせ下さい。

●「米自給支援プロジェクト報告集 N03」発行さる

青年の島での「米自給支援プロジェクト」の報告を協賛カンパいただいた方に随時行っています。ご希望の方は「協賛カンパー口=3,000 円」をお願いします。只今、2012 年度協賛カンパ受付中。

協賛カンパの振り込みは

郵便振替口座番号：00170-2-195919

口座名：日本キューバ連帯委員会

※通信欄に「米自給支援プロジェクト」と記入下さい。

●2012 年度会費の呼び掛け

平素の御協力に感謝致します。2012 年度の会費のご協力をお願い致します。同封、振り込み用をご使用下さい。

◎予告

キューバ教育調査視察団が、キューバ教育研究会の企画で 2013 年 2 月か 3 月に計画中です。募集要項は 8 月中にできますので、ご希望の方はご連絡下さい。

キューバに行ってきました

福岡・みやま市 坂田 邦宏

この度、長年の同士であり、職場の良き先輩でもあった K さんの退職を記念し、K さんを慕う仲間 6 名とともにキューバ旅行 7 日間(4 月)に出かけてまいりましたので、報告します。

もともと本旅行は K さんが退職を迎えるにあたって、『社会主義国「キューバ」へ一度は行ってみたい』と学習会終了後の酒宴の場で発したのが今から 3 年前のことで、そこから K さんの退職に合わせ計画を練っていたものですが、当初 2 名から最終的には 7 名で参加できたことは、これまでの学習会?の成果でもあるかもしれません。

旅行の主目的は団塊世代の方々は、ゲバラとカストロが起こした革命の国を感じてみたいという団塊世代の思い

もあったと思います。

無論、青年の私の主目的は、社会主義国の空気に触れ、そこで生活する人々との交流です。

まずざっと旅程を書きますと、カナダのトロントから4月20日にハバナ入り、ハバナ（1泊）→サンタクララ（1泊）→トリニダ（1泊）→ハバナ（2泊）と全行程7日間、トロント帰着は4月25日でした。キューバはまだ交通の便が悪く、移動に余分な時間がかかってしまいます。そこがでも、また今のキューバの良さかもしれません。

サンタクララでは、国有農場の分割と協同組合農場への再編が行われ、国营農場を分割し、土地の利用権を「協同生産基礎単位」（UBPC）と呼ばれる生産隊に貸与し、政府との契約で一定の作物を栽培し、契約量を超える作物は自由市場で売ることができるという制度を視察し、そこでは「能力に応じて働き、労働に応じて受け取る」という原則の実践が行われていました。

トリニダでは砂糖精製所跡地で奴隷労働の歴史を学び、途中、ヘミングウェイの「老人と海」の舞台を見学、ハバナでは老人ホーム視察。最終日には、キューバのナショナルセンター（日本でいう連合本部）の組織部長との懇談では、ソ連亡き後中国が現在キューバを相当支援しており、現在は第二の貿易相手国となっている話など（容易に想像できることだがちなみに一位はベネズエラです。）と盛りだくさんで、有意義な旅行を体験できました。

そして結果から言うと、キューバは不思議な国です。片や月20ドルの初任給、50年代のアメ車、高い教育・医療水準、皆結構幸せそうで不思議な国です。ちなみにキューバの企業は基本的に国营ですが、最近ではレストラン・宿泊施設・タクシー等の観光関連業は私営がかなり認められてきているとのこと。無論私営の方がはるかに味・サービスは上だそうです。

ちなみに関係ありませんが、住宅などは私有及びその売買がここ数年認められてきているとのこと。カストロからラウルに指導者が変わり、実質的にもいろいろ変わってきているようです。

振り返ってみるとまったく怒濤のような7日間でした。本当に良い機会を与えていただきました。なお今回の旅行を段取りしてくれた旅行社のIFCの鎌田さんには大変お世話になりました。ありがとうございました。

2012・6・15記

CUBA～変わる島の風景

福島・村上久美子



「家、売ります」

昨年、共産党大会で決定された方針の中で「家と車の売買解禁」は非常にインパクトの強い政策として人々を驚かせる一方、「実施まで10年はかかるだろうね」との醒めた意見も耳にした。

しかし、昨年うちに、“あっという間に”実施されたそうで、この4月には「売家」の看板がかかった家が見られた。

写真の家はハバナから60kmのアルテミサにある。友人の見立てだと8千CUC（70万円）ほどだという。友人はさらに言う。「まともに働いてたら、買えるわけがない」

平均的な労働者の月収は15～20CUC。一生かけても追いつかない金額だ。

車も然り。「まじめに働いたらいつか手にできる」という希望からはかなり遠いところにあるのが実態である。

（2012・6・15記）